

10月24日（火）、1年2組で特別活動の努力点公開授業が行われました。

単元は、「おはなしめいじんになろう」です。自分が伝えたいことを、聞き手に伝わりやすい話し方で話すことができるようにします。

前時に学習した「ききかためいじん」のポイントは、「**あ**いてのめをみて」「**い**いしせいで」「**う**なずきながら」「**え**がおで」「**お**わりまで」でした。そして、今回は、「おはなしめいじん」を目指すことにしました。

まず、教師が、話し方の「よくない例」を示しました。「みんなが先生の方を見ているのに、先生が後ろを向いていい?」「怒った顔だったらどう?」と言うと、児童は「ダメ～」と答えました。そこで、教師が、「では、どうやって話すとよいのでしょうか。ペアで話してみましよう」と投げ掛けました。

児童は初め、あまり考えを話し合うことができませんでしたが、途中、教師がもう一度「よくない例」を示すと、ペアでの話し合いが活発になり、「声を小さくしない」や「相手の目を見る」などと考えることができました。



【「よくない例」を示す教師】



【ペアで話し合う児童】

次に、学級全体で、ペアで話し合ったことを発表しました。「おへそを向ける」や「距離を考える」など、多くの考えが発表されました。そこで、「ききかためいじん」のときののように、今度は「かきくげこ」で考えるように促しました。

児童は、「『こ』は、声の大きさ」「『か』は顔を見る」「『き』は距離かな」「気持ちだと思う」と、話し合いました。「け」だけは「げ」で考え、「元気」という言葉が聞かれました。そして、1年2組が考えた「おはなしめいじん」のポイントは、「**か**おをみて」「**き**もちをこめて」「**く**ちをおおきく」「**げ**んきよく」「**こ**えのおおきさをかんがえる」となりました。

最後にクイズ大会を行いました。「ききかためいじん」のポイントから一つを自分のめあてとして選び、友達のクイズを聞き取ることができるようにしました。クイズ大会にしたことで、児童は話し手の話をもらさず最後まで聞き取り、答えることができました。クイズ大会の後、「ききかためいじん」のめあてが達成できたか学習の振り返りをしました。



【クイズ大会の様子】

児童にとって、大事なことを「あいうえお作文」でキーワード化することは定着を促す上で効果的です。今回の「聞き方の『あいうえお』」や「話し方の『かきくげこ』」だけでなく、避難時の「おはし」、防犯の「つみきおに」など、様々な場面で活用されています。今後も、キーワードを日々の授業で振り返らせることで定着させ、自分の伝えたいことをしっかり伝えたり、相手の話をもらさず聞いたりすることができるようにしたいです。